

上海から福島に元気を！～福島県活動支援報告～

北京事務所

2013 年 3 月 10 日(日)、東日本大震災から間も無く 2 年を迎えるにあたり、福島県上海事務所及び上海福島県人会が主催となり、ふるさと復興応援シンポジウムを開催しました。クリア北京事務所として、同交流事業の現地事務補助を行いましたので報告いたします。

1. 事業概要

■趣 旨：福島県民が震災に立ち向かう様子、復興状況等を中国国民、中国在住者にお知らせし、福島県の現状を理解いただくとともに、長期的な支援の機運の醸成を図るほか、経済交流の更なる促進につなげるもの。

■日 時：2013 年 3 月 10 日（日）

■場 所：中国上海市

■内 容：第一部 式典

知事挨拶（代読）、黙祷 等

第二部 ふるさと復興応援シンポジウム

福島県在住の講演者による講演及びパネルディスカッション

その他各種展示 等

2. 支援概要及び所感

まず、当事務所では、支援をイベント前日から開始し、訪中された福島県からの講演者の受入、翌日の打ち合わせ等を行いました。また、当日は午後からの開催に合わせて午前中から会場設営、機材の準備等を行い、開催時間内には、講演用 PPT の操作、タイムキーパー、写真撮影等を行うなど、幅広く支援を行いました。

第一部の式典では、福島県上海事務所長による県知事の代読から始まり、震災発生時刻にあわせた参加者黙祷を行いました。その際には、参加者が書き連ねた福島に対するメッセージを巻き付けたろうそくを点し、その思いをともにしました。第二部では、福島県から訪中した三名の講演者による講演と、会場との意見交換が中心に行われました。その三名、130 年の歴史を持つ旅館を津波で流された女将さん、経営していた企業の売上げが半分に落ち込んだあと、地域の復興を進めてきた社長さん、日中交流を進める女子高校生から様々な思いをうかがうことができました。

同時に、被災者の方々の復興への思いも感じ取ることができました。仮設住宅から情報の発信を行うため、触ったこともないスマートフォンを買い、ツイッターやフェイスブックを始めた話、日本全国を回り福島県の地方の物産展を開催した話など、強い思いと意思が見て取れるようでした。一様に大変な困難から学んだことが数多くあるとお話されていました。特に、講演者の女子高校生の「未来は誰かでなく、私達がつくるもの。努力なくして未来はない。」とい

うメッセージが、強く印象に残っています。

また、震災後福島県を訪問した中国人参加者が、「元気付けようと思って訪問したにも関わらず、逆に私達が元気をもらってしまった。」「被災者の方々が前向きに頑張る姿が本当に素晴らしく感じた。」「訪日前のイメージと違い、福島の自然はまるで絵の中にいるように美しかった」と、福島への強い思いを述べられ、参加者それぞれの思いが会場の中で一つになっていったように感じました。



《福島県知事のメッセージを代読する県上海事務所長》



《震災発生の時刻に合わせて行われた黙祷》



《ろうそくには、日本人中国人双方から
福島にける思いが書き連ねられた》



《経営していた旅館を津波により
流された女将が語る当時の現状》

3. おわりに

今回イベントに参加された方々は皆上海在住の日本人や福島県関係者、日本を訪問したことがあったり、日本に関心のある中国人でした。参加者は約 170 人。この 170 人が今回のシンポジウムで見聞きした話を、今後日本や中国で広めてくれることを期待せずにいられません。また、それは福島県の願いでもあると思います。震災から 2 年たった今でも現実の復興、その

支援はまだ遅れているところもあります、しかし、既に被災から立ち上がった福島県民の思いは、たくさんの人に本当の福島を見て欲しい、知ってほしいということにもうつり変わってきたのではないかと考えます。

私事で恐縮ではありますが、2011 年 4 月から 2 年間、北海道・東北地方及び関東地方の自治体海外活動支援を担当させていただきました。この 2 年間、自治体国際化協会においても各種震災復興関連事業を行っており、私自身担当地域として、被災自治体の活動支援を行うことが多くありました。2013 年 3 月末をもって帰任となる中で、最後に、このような節目の事業の支援が行えたことは、クレア北京事務所としても、個人としても意義があったと感じています。引き続き当事務所においても、中国で各種国際交流事業を行う自治体の支援を続けていきます。

(阿部元所長補佐 東京都文京区派遣)

